陸軍歴史

二一

勝
2
21

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

陸軍歴史巻二十一

軍制改正中

目録

一 軍制改正ノ取調ヲ促ス諭達
一 陸軍將士ノ定員
一 將士人員ノ取調
一 諸郭門ノ守衛

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

一従前諸門ノ勤番及火消役ノ來歷

一戎裝色目

一弓矢槍奉行具足奉行ヲ合併シ武具奉行ト
唱替ノ布令

一五役ノ變換

一旂下ノ警衛ハ其役々ノ見込ニ可任ノ布令

一外様大名軍役取調書

一海陸軍學校合併ノ建議

一遊撃隊ノ編制

一銃隊操練異様ノ着服ヲ禁スル布令

一奥向隊伍編制ノ建議

一諸官局ノ陶汰

一譜代大名兵制變革ノ取調

一三兵下役改正ノ建白

一陸軍三兵撒兵差圖役下役人撰ノ上申

一戎服改定ノ布令

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

陸軍歴史巻二十一

軍制改正中

七月二十七日紀伊守下附

覚

御軍制御改正之儀者重大之御用筋ニ而容易ニ取調も行届間敷哉ニ者在得共被　仰出以来追々時日も押移り候ニ付速ニ御實備相立不申様ニ而者當今之時勢何分

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

御不安心之事ニ付何卒厚ク申合取調方精ク
掛取夜様可被致事

陸軍将士定員

将官中

一陸軍總裁　西洋フェルドマールシカルク　壹人

若年寄

一陸軍副總裁　同ゼネラール　壹人

一陸軍奉行　同ロイテナントゼネラール　壹人

海舟書屋

高五千石

右歩砲騎三兵之總大将ニ有之候

一歩兵奉行　西洋ゼネラールマヨール　三人

高三千石

但内二人ハ歩兵組十六組撒兵組四組之支配相司り

配相司り申候

内壹人ハ親衛狙撃組四組之支配相司り

申候

以上大将合六員

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一歩兵組

右兵賦人數ほゞ相立壱組ニ付三百九十九人内

小頭五人 但十六組之内常備十二組外郭番兵

二組遊軍二組

一歩兵頭 西洋コロネル

二組ニ付壱人

高二千石

右者歩兵二組即壱 レジメント之指揮を司

申渡

一歩兵総目付 同マヨール

二組ニ付壱人

高七百石

十六組

海州書屋

右ハ壱 レジメント隊之惣目付ニ有之西洋アシ

ユータントマヨールオヒシールデカムプと相唱へ騎馬総教

頭とも譯ス申渡

二組ニ付壱人

一歩兵目付役

歩兵差図役頭取ニ而相勤候別段役料百五拾俵

壱組ニ付即バタイロン

一歩兵頭並 西洋ロイテナントコロネル

壱人

高千石

右ハバタイロン将ほゞ即壱組指揮役ニ而座候

一歩兵目付役並

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

右歩兵差図役頭取より相勤候別段陪役
料百俵

一 歩兵差図役頭取 西洋カピテイン 五人
高四百俵
右八中隊之指揮を司り申候

一 歩兵差図役 同一等ロイテナント 五人
高三百俵
右八小隊之指揮を司り申候

一 歩兵差図役並 同二等ロイテナント 五人
高弐百五拾俵

一 歩兵旗役 壹人
高百俵持扶持

一 歩兵目付下役 西洋アジユータンドランドルヲヒシール 壹人
高百俵持扶持 役金弐拾両

右総目付目付役之佐相勤申候

一 歩兵差図役下役 西洋セルジアントマヨール 五人
高八拾俵持扶持 役金拾五両

右八半隊之指揮以下相勤申候

一 歩兵差図役下役並 同セルジアント 二十人

右八壹組半隊之指揮を司り申候

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

高七拾俵持扶持　役金拾両ヲ五両迄

右左右嚮導相勤申候

一太鼓役取締	壹	人
一太鼓役	壹	人
一太鼓手		
一喇叭手		
以上十六組合ヲ		
歩兵頭	八	人
歩兵頭並	十六	人
歩兵総目付	八	人
歩兵組目付役	八	人
同並	十六	人
歩兵組差図役頭取	八十	人
歩兵組差図役	九十六	人
同並	八十	人
歩兵組目付下役	十六	人
歩兵組旗役	十六	人
歩兵組差図役下役	八十	人
同並	三百二十	人
太鼓役取締	十六	人

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

太鼓役

鼓手

右

将士　合三百十二人

下等士官　合四百四十八人

兵卒

撒兵組

右八五拾俵以下　御目見以下小普請之者ゟ

相立壹組人數

四組

十六人

一撒兵頭

高弐千石

壹組ニ付

弐組ニ付壹人

一撒兵頭並

高千石

壹人

一撒兵差図役頭取

高四百俵

四人

一撒兵差図役

高三百俵

四人

一撒兵差図役並

四人

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

高貳百五拾俵

一撒兵差図役下役　四人　役金拾三両
高八拾俵持扶持

一撒兵差図役下役並　十六人
高七拾俵持扶持　役金七両

一太鼓役取締　壹人

一太鼓役　四人

一鼓手　二人

以上四組合

撒兵頭

海舟書屋

同並　四人

撒兵差図役頭取　十六人

撒兵差図役　十六人

同並　十六人

撒兵差図役下役　十六人

同並　六十四人

太鼓役取締　四人

太鼓役　十六人

鼓手

右

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

将士　合五十四人

下等士官合百人

騎兵組

一騎兵奉行　西洋ゼネラールマヨール　壹人

高三千石

右全隊之指揮を司り申候

一騎兵頭　同コロネル　合貳人

高貳千石

右騎兵四組　即壹レジメント之指揮と司り申候
八組ニ付合貳人

海舟書屋

一騎兵頭並　西洋ロイテナントコロネル　合四人

高千石

右二組宛之指揮を司り申候

一騎兵総目付　同マヨール　壹人

高七百石

以上将官

騎兵組八組

但内貳組ハ槍隊ニ而　御目見以上百俵以下五拾
俵迄小普請之者を以相立騎兵槍組と相唱可申
候自餘六組ハ諸組興力を以相立申候人數壹

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

組九十六人

壹組ニ付　即壱　エスカドロン　壹人

一騎兵差図役頭取　西洋　カピテイン

高四百俵　役料百俵

右壹組之指揮を司り申候

一騎兵差図役　同一等　ロイテナント　弐人

高三百俵　役料百俵

右両翼小隊　即　ペロトン之指揮を司り申候

一騎兵差図役並　同二等　ロイテナント　弐人

高弐百五拾俵　役料百俵

右第二第三隊　即　ペロトン之指揮を司り申候

一騎兵差図役下役　同　セルジアントマヨール　三人

高百俵　持扶持　役金三拾両　当分ハ手当弐拾両

右之内壱人ハ遊兵之長相勤　弐人ハ嚮導之長相勤申候

一騎兵差図役下役並　七人

高七拾俵　持扶持　役金三拾両　当分ハ手当弐拾両

右七人之内六人ハ遊兵として　総嚮導等相勤候壹人

ハ糧食配當を司る

右之外

一騎兵目付役　四組ニ付壹人

海州書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

右差図役ゟ相勤候節別段給役料百俵

一旗手　四組ニ付壱人

高百俵持扶持　役金三拾両當分四手當弐拾両

右差図役並ゟ相勤候節

一騎兵目付役下役　四組ニ付壱人

高百俵持扶持　役金三拾両當分四手當弐拾両

一喇叭役取締　四組ニ付壱人

一喇叭手　弐人

以上八組

合　壱人

騎兵奉行

騎兵頭　弐人

騎兵頭並　四人

騎兵總目付　弐人

騎兵差図役頭取　八人

騎兵差図役　十八人　内騎兵目付弐人

騎兵差図役並　十八人　内旗手弐人

騎兵目付役下役　弐人

騎兵差図役下役　弐十四人

騎兵差図役下役並　五十六人

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

喇叭役取締　　弐人

騎兵　　冨四十八人

将士　合五十一人

下等士官合八十四人

大砲組拾弐組

但壱組大砲八挺人数六十四人常備六組外郭
防門番半組ヲ十三ヶ所ニ而六組半通計拾弐
組半相成ル故右残リ半組ハ第壱番ヨリ
附属可致候

海舟書屋

壱組ニ付

一大砲組之頭　西洋ロイテナントコロヲル　壱人

高千石

右大砲壱座即八挺之指揮を司り申候

一大砲差図役頭取　弐人

高四百俵

右大砲半座即四挺之指揮を司り申候

一大砲差図役　弐人

高三百俵

右大砲壱座之左右弐挺ツヽ支配仕候

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一大砲差図役並　　弐人

高弐百五拾俵

右大砲壱座之中弐挺ツヽ支配仕夫

一大砲差図役下役同並共　　八人

差図役下役　高八拾俵持扶持　役金拾両

同並　高七拾俵持扶持　役金七両

右大砲壱挺之支配仕夫

以上十弐組　外羊組附之

大砲組之頭　　十弐人

大砲差図役頭取　　弐十五人

海洲書屋

大砲差図役　　弐十五人

大砲差図役並　　弐十五人

大砲差図役下役同並共

右将士　合八十七人

下等士官　合百人

砲卒　合八百人　　百人

歩兵弐拾組　但撒兵共

騎　八組

大砲組拾弐組

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

将士　合五百十二人

下等士官　合七百三十二人

一兵賦人員大約六千四百人程ニ相成可申見込
ニ候間右を十六バタイロン（一ペロトン一バタイロン四十人　四百人四百四十人
ニ相立候積ニ付差向左之役々被
く者別冊之通追々被　仰付候而可然ニ奉存候

一歩兵頭並　十六人
千石高
右ハバタイロン将ニて即一組指揮役ニ地座候

一歩兵組差図役　九十六人
三百石高
右ハ小隊之指揮を司り申候

一歩兵組差図役並　八十人
弐百五拾俵高
右ハ第一級半隊之指揮を司り申候

右之通被　仰付歩兵頭並壱人ニ付一バタイロン之
兵卒并歩兵組差図役六人同並五人宛附属被
仰付陣営落成次第一ヶ所ニ而二バタイロン宛為
受取候事

但外郭御門ニ當番為勤方之儀ハ別冊ニ有之候

一小普請　御目見以下五拾俵以下拾五俵迄之者人

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

員大約一千三十人可有之右者場所高三十俵
三人扶持先手撒兵組被　仰付四バタイロン（一ペロトン三十二人八隊を以一バタイロン二百五十六人一バタイロント云）ニ相立候見込ニ付差向左之役ニ被
仰付候事

一歩兵頭並　千石高　四人

一歩兵組差図役　三百俵高　弐拾人

一歩兵組差図役並　弐百五拾俵　十六人

右之通被　仰付歩兵頭並壹人ニ付先手撒兵
組一按隊龍（并歩兵組差図役六人同並五人宛
附属被　仰付候事

海舟書屋

右役ニ之差図を受　御城内諸向番所是迄之
衛士ニ引替當番被　仰付候事

但御番所當番人員并為勤方等者別冊ニ有之候

一御天守番六組人員六十人（富士見寶藏）番六組人員八十八
人を合併し百四拾八人を以撒兵一按隊龍（一百羅也二以一按隊龍ニ此人數百四十四人十四人六隊を）を相立候見込ニ御座候間是迄之御天
守番之頭（富士見寶藏）番之頭等者御廃し相成番士
者一同（御天守富士見御寶藏）番ニ唱替被　仰付差向左ニ役ニ

被仰渡候事

一（御天守富士見御寶藏）番之頭　壹人

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

千石高歩兵頭並同等之者

一 浜天守 冨士見 浜宝蔵 番組頭　四人

三百俵高歩兵差図役同等之者

一 同並　三人

弐百五拾俵高歩兵組差図役並同等之者

右之通被　仰付頭壹人ニ一同附属被　仰付候事

但當番之儀者先ッ是迄之振合ニ習ひ置戌服

八平常着用爲致置度事

一 浜徒弐拾組壹組人員三拾人組頭弐人弐拾組

惣人員六百四十人右を三百弐拾人宛二按隊

龍 一百羅也三十二人十隊を以一按隊龍とも此人数三百二十人 より相立候見込ニ付是迄之如く頭多人數被差置候ニ不及且組頭者伍長ニ浜撓直し相成差向左之役ニ被　仰付候事

一 浜徒頭　弐人

千石高歩兵頭並同等之者

一 浜徒組頭　十弐人

三百俵高歩兵組差図役同等之者

一 浜徒組頭並　十人

弐百五拾俵高歩兵組差図役並同等之者

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

右之通被　仰付候徒頭壹人ニ付候徒三百弐
十人并候徒組頭六人同並五人ツヽ附属被　仰
付候事
但當番之先是迄之振合ニ而被差置尤候徒頭
ハ泊番　御免被　仰付候事
御成候供又者非常　御出城之節者二百羅紙
六十四人宛弐拾隊龍之内ゟ交代ニ而是迄通り
候床几廻り候用相勤候事
一小十人拾壹組壹組人員二十人十一組人員弐百弐
拾人右を合併二拾隊龍　一百羅紙二十四人ハ隊を名拾隊龍ゟ
此人員弐百二十四人不足四人ハ内入人之積

海舟書屋

ニ相立候見込ニ付是迄之通頭多人数被差置候
ニ者不及且是迄之組頭者候慶ニ相成差向左之
役ゝ被　仰付候事

一小十人頭　壹人
千石高歩兵頭並同等之者
一小十人組頭　四人
三百俵高歩兵組差図役同等之者
一小十人組頭並　五人
弐百五拾俵高歩兵組差図役並同等之者
右之通被　仰付頭壹人ニ一同附属被　仰付候事

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

但當番去先是迄之通之振合ニ可被差置候
小十人頭者泊番　御免被　仰付候事
一小普請　御目見以下百五拾俵以下五拾俵以上
大約人員貳百四十七人并諸組與力之内
一大筒番與力　九十騎
一小筒書院番與力　百　騎
一持組與力　七十騎
一先手組與力　貳百三十六騎
一鉄砲方與力　貳十騎
一百人　伊賀筒裏　廿五騎組與力　四十五騎

以上與力五百六十壹人総計八百零八人右小
普請百五拾俵高ニ筒足高百俵筒足高五拾俵被
八筒譜代ニ被成下元高ニ筒足高破下與力筒抱之者
下騎兵組被　仰付候事
ニ相立候見込ニ付差向左之役ニ被　仰付候事
但現米八拾石取之筒譜代ニ準き候事

一騎兵差図役頭取　六人
四百俵高筒役料百俵即エスカドロン之指揮役ニ筒座候
一騎兵差図役　十二人
二百俵高筒役料百俵左右ペロトン之指揮を司り申候

一ペロトン二十四騎四隊之エスカドロン
ニて此人数九十六騎

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一騎兵差図役並

弐百五拾俵高ニ而役料百俵中ペロトンニ之指揮を司り申候

右之通被　仰付差図役頭取壹人ニ付騎兵組

九十六人并差図役二人同並二人ッヽ附属被

仰付候事

一小普請　御目見以上百俵以上之者大約人数百八

十人程右去百五拾俵高ニ而是高被下騎兵槍組

被　仰付ニ卫スカドロン（一ペロトン二十四騎四隊を云卫スカドロンと云）ニ相立候見

込ニ付差向左之役ニ被　仰付候事

一騎兵差図役頭取

弐人

海舟書屋

四百俵高ニ而役料百俵

一騎兵差図役

四人

三百俵高ニ而役料百俵

一騎兵差図役並

四人

弐百五拾俵高ニ而役料百俵

但陣営當番之儀ハ別冊ニ首之候且戦士人数不足

之分ハ前騎兵組右餘を以補ひ候事

一諸組同心之内

百八十人

一大ニ而番同心

弐百人

一ニ而書院番同心

一沽持同心　三百六十五人
一沽先手同心　九百八十人
一百人（伊賀手五騎同心）　弐百人
一沽鉄砲方同心　百三十二人
一大筒方　十二人
一沽鉄砲磨同心　十二人
以上人員弐千零八十壹人場所高三十俵三人扶持大砲組被　仰付軽野砲隊六座（一座大砲八門砲手六十四人、六座大砲四十八門砲手三百八十人）重野砲隊六座半ニ振分ケ煩手ニ相用候見込ニ付差向左之役々被　仰付候事

但右同心有餘之分着大砲組之頭ニ支配可為致候事

一大砲組之頭　十二人
千石高大砲壹座即八挺之指揮を司り申候
一大砲組差図役　弐十五人
三百俵高大砲壹座之左右二挺宛支配仕候
一大砲組差図役並　弐十五人
弐百五拾俵高大砲壹座之中二挺宛支配仕候
右之通被　仰付大砲組之頭壹人ニ付大砲組六
十四人大砲差図役弐人大砲差図役並弐人宛
附属被　仰付候事

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

但當番之後者外郭御門ゝに半座大砲四挺宛爲
詰居事
大砲都而十二座半之處半座之人員者頭十二
人之内筆頭之者之を惣括ゟ可申事
一奥向寄合諸向番士小十人組ヲ陳歩騎二隊ニ相立銘
ゝ之所長ニ寄リ刀槍二兵を以 御馬前之守
衛と可心得候 自兼而各ゝ之所長頭ゝ
ニ而爲取調騎刀隊歩刀隊騎槍隊歩槍隊ニ
相立不申候而者向番替被 仰付調練之儀
世話嚴重有之候事

海舟書屋

但向番方高五百石以上者騎隊支ヨリ以下者歩隊
之積
右之外砲銃彈藥器械等之製造陣営組屋敷取
建方其外諸向觸業等者別冊ニ有之候
差向入用之將士惣計
一歩兵頭並 貳十四人
千石高
一歩兵組差圖役 十三人
三百俵高
一歩兵組差圖役並 百十三人

一大砲組之頭　十二人
　　十石高
一大砲差図役　戝十五人
　　三百俵高
一大砲差図役並　戝十五人
　　戝百五拾俵高
一騎兵組差図役頭取　戝十五人
　　四百俵高内役料百俵
一騎兵組差図役　十六人
　　三百俵高内役料百俵

海舟書屋

一騎兵組差図役並　十六人
　　戝百五拾俵高内役料百俵
　　但内徒頭小十人頭等共歩兵頭並等之内ゟ差入致し候
　　右之通

　　門〻守衛見込書付

一二ノ御門　撤兵一小隊　但三十二人外役人四人
一下乗橋
一寺澤御門
　　但内番所有者三ノ御門番人ゟ兼帯可致事

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

當分之内此三ヶ所之陸門者陸先手大組二組ニ而隔
日當番為相勤夜右與力同心者諸組與力同心之内
柔弱之者放又者五十歳以上之者ヲ㠯組替可被　仰
付夜事
一中仕切陸門　右同斷
一臺部屋
一下埋陸門
但陸番所者是迄之通中仕切陸門番人兼帶可然事
當分之内此御門ニ者陸先手小組二組ニ而隔日當番為
相勤夜右與力同心者諸組與力同心之内ニ而柔弱之
者放又者五十歳以上之者ヲ㠯組替可被　仰
付夜事
一陸書院陸門　右同斷
一上埋陸門
但上埋陸門之儀者是迄之通陸書院陸門番人兼
帶可然事
當分之内前同斷
一蓮池御門　撒兵半小隊　但十六人
外役人二人
一銅御門　右同斷
一平川御門　右同斷
一三ノ丸明地御門

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

但三ノ丸明地御門之儀平川御門番人兼帯可為事

一下梅林御門　右同断

一坂下御門　右同断

一中御門　右同断

一御玄門前御門　右同断

一御裏御門　右同断

一吹上御門　右同断

一紅葉山下御門　右同断

一矢來御門　右同断

右御門ニ之儀者小普請　御目見以下五拾俵以

海舟書屋

下大砲附屬并火藥輸送車及諭糧車守護之撒兵千三十五人之内鉄兵を以為相守候積り

一下馬勘定所御門内張番所　中ノ口御門

一馬場屋御門　馬金藏馬門

一二九中仕切御門　馬長屋御門

一塀重御門　中ノ口御門

一新御門　馬廣敷御門

一喰違御門　上梅林御門

一馬天守下馬番所二ヶ所　北拮橋御門

一汐見坂馬門　馬太鼓仕切

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一奥仕切　新土戸御門
一陸切手御門　陸廣敷御門
一陸切手御門　陸長屋
一陸納戸仕切　新土戸御門
一奥仕切　山里
右御門々之儀者是迄之通

歩兵弐十組　但撒兵共
騎兵八組

海舟書屋

大砲組十弐組
将士　合五百十二人
下等士官合七百三十二人
右役々者身分之高下次三男等ニ不拘業前を以被　仰付不申候而者難相叶候間左之ケ條兼而被　仰出有之度事

下ケ札
此儀成丈次三男ニ八不被　仰付候共業前之事故事実撰群之者ハ被　仰付候とも別規被　仰出候譯ニ無之養子口も陸座候ハヽ

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

縁談仕度方可為事

一町抱者より町譜代場ニ被　仰付候共或者不仕ニ而御役御免被　仰付度節者町抱席ニ相戻度事

下ケ札
此條調方見込通り

一是迄町抱并小高之者布衣以上町役被　仰付度節者永々百俵高ニ被　仰付候共是者無數之事ニ而箇様ニ相成候程之出群之業前之者出来度者国家之至寶とも可申聞布衣以上三千石高以上被　仰付度者左ニ百俵高ニ被　仰付候様ニ致し度候

下ケ札

廢止之事

一小高ニ而三千石高被　仰付度者弐百俵高被　仰付候共是者無數之事ニ而箇様ニ相成候程之出群之業前之者出来度者国家之至寶とも可申聞布衣以上三千石高以上被　仰付度者左ニ百俵高ニ被　仰付候様ニ致し度候

事

一小高ニ而三千石高被　仰付度者弐百俵高被　仰付候共是者無數之事ニ而箇様ニ相成候程之出群之業前之者出来度者国家之至寶とも可申聞布衣以上三千石高以上被　仰付度者左ニ百俵高ニ被　仰付候様ニ致し度候

但二ヶ條是迄ニ違ひ餘り過厳之ニ沙汰ニ

仰付度節者又町抱席ニ相戻度事

但二ヶ條是迄ニ違ひ餘り過厳之ニ沙汰ニ

廢止之事

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

も被　思召次第加増ニ相成候高丈代金
　　を以其者子并孫之代迄被下其後廃止之事
一永く　御目見以上を申候も油断廃止ニ相成若
又拾俵之功業有之候ハヽ其子并孫之代迄ハ
御目見以上被　仰付都而永世取極候儀者厳
敷油断廃絶之事

下九丸

此儀ハ陸軍制ニ不拘成丈永く申候無之方
可然布衣以下之陸役ニ而得者此通り之内規
矩相定候而も可然歟之事

海舟書屋

一尼分次三男ニ而陸役被　仰付候者去可成丈
養子ニ相成候様諭ス有心懸有之候ハヽ可成養家も
無之候而永年陸役相勤候共死去或者不仕ニ
而浮役ニ而も相成候様相勤候ハヽ浮ヲ以群之功業有之候者
去捨別其他ヲ以儘廃絶相成候者御役被　仰
付候節別ニ被仰渡有之度事

下九丸

此儀前ニ申上候通ニ而成丈養子ニ差遣
候自然陸役中病死之分者調方見込通り
ニ而可然萬一行軍之節戦死候ものハ

子孫者格別之陸海諸首之及様致度事

右之ヶ條兼而被　仰出及上ヶ而海陸軍役ニ
被　仰付及事右様ニ之及得共出高而已相
増候ニ世禄怠惰之者而已相殖及間前條之儀
者嚴敷被　仰出度事

下ケ札

調方申上及世禄怠惰之者而已相殖及ニ
申ニ至當之論ニ而前條申上及三千石以
上或ニ布衣以上之陪役ニ相成及者戴百

海舟書屋

俵百俵高ニ相成及ニ
不残陪取立相減候共中ニ多人數出来
可申事ニ付有之間數既ニ調方ニ而も
右ニ付多分ニ出来及譯ニ付之此處認方
不宜及間書直し可申欤ニ付申位之
事ニ而あなこう此上増長ニ仕間敷存
上及ニ付當世之流弊實子無之早
世仕及者ニ死ニを押隠し急養子仕跡
目を相願不慮之死亡ニ至り及者ニ良
死を得及如くニ取直し家督ニ相違被

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

下灰事御仁慈之儀を忠左申　上を欺
灰罪不少且忠　御祖宗之御模範こも
全く姑息之小恵こ有之灰間以来者右
様之者ヶ急度御糺し如何敷取計之分
去跡式不被　仰付高被　召上可然奉
存灰尤大身忠元より小身こ而も妻子
家来共忽路頭こ迷灰様こ而も御不仁
之事故其族之一生忠捨扶持被下追く
身寄こ片付灰様可致段等兼而被仰渡
置灰忠銘く覺悟こも可仕此儀忠御正

海舟書屋

道こ而御遺制を被取行灰事故彼是申
者ヶ決而有之間敷此節御新政御改革
之折柄可然儀こ奉存灰間餘論ヶ〳〵此
段申上候

爰こ從前諸郭門ノ勤番及ヒ火消役等ノ
來歷ヲ殿居儀太平年表ヨリ左こ畧抄ヒ
テ聊後ノ參考こ備フ

一中雀門門　御書院番頭ヶ組
ヶ組與力拾騎同心弐拾人宛

一 沽云關前與力番所幕張日ニ替り鉄砲二十
　五挺弓二十五張毎夜袋置附
右六組一晝夜勤仕
一 中之御門 沽持弓 沽持筒頭
　ニ而組與力 拾騎 同心五十五人宛
右五組一晝夜勤仕
一 大手三之御門 沽鉄砲百人組之内
　ニ而組與力 弐拾騎 同心百人宛
右四組一晝夜勤仕
一 寺澤御門 沽先手組與力同心
一 二丸銅御門 大番内與力同心
一 同中仕切 添番支配

一 平川口御門 沽先手組與力同心
一 下梅林 右同断
一 上梅林 沽留守居與力同心
一 沽切手御門 沽切手番頭同心
一 二丸喰違 沽留守居同心
一 鹽見坂 沽留守番與力同心
一 坂下御門 沽先手組與力同心
一 紅葉山下御門 右同断
一 西丸沽裏御門 沽裏御門番内與力同心
一 西丸御玄関前 沽書院番内與力同心

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

一山里　伊賀者

一北搭橋　㊧留守居與力同心

一西丸㊧臺所前　西丸㊧留守居與力同心

一蓮池御門　㊧先手組與力同心

一二丸中ノ口御門　㊧持筒與力同心

一三ノ丸喰違　㊧先手組平川口々持

一富士見㊧番所宝蔵　番之頭組

一御天守　番之頭組

一上埋御門　㊧書院番頭支出人

一下埋御門　㊧持方出人

一新御門　右同断

一西丸吹上御門　㊧先手組與力同心

一吹上御門　吹上㊧庭方

一同㊧鷹御門　右同断

一同植木御門　右同断

一同新御門　右同断

一西丸中仕切　㊧持頭與力同心

一同獅子口　西丸大手㊧番所持

一大手御門　鉄砲二十挺　長柄二十筋
持筒二挺　弓十張
持弓二組

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

万治二己亥年八月御造営

拾万石以上御譜代家勤之番侍拾人之内
番頭一人
物頭二人常肩衣着平士羽織袴着

同所去元来真田伊豆守勤初外曲輪之諸
番所之規矩被定候事

一夜五半時御夜詰引之注進有之西番所前
幕張奥之若出入等有之時者御目付方ゟ
差図之上ゟ而取計候事

一御成之節都而諸番所并當所ニ不限万石
以上之分者通御之節　上意有之候事

御規式　御成之節ニ者詰番大名衣服熨
斗目長袴家来給人以上熨斗目半袴着
通御之節去不残人拂當主面番所中程土
間ゟ致盛砂右之場所ゟ平伏舞形ゟ家老
壹人御門扉際ニ留主居役壹人蹲踞仕罷
在候事

一西丸大手御門　鉄砲二十挺　弓十張　長柄二十筋
持筒二挺　持弓二疋

右拾万石以下六万石以上御譜代家番侍并
勤方ニ大手御門前條之通ニ候事

一内櫻田御門　鉄砲二十挺　弓十張　長柄十五筋
持筒二挺　持弓二疋

海事書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

右陪譜代大名六七万石勤仕衣服并勤方共
万端大手御門前係之通ニ夜事

一外櫻田御門　鉄砲十挺　弓五張　長柄十本
　　持筒訓挺　持弓志組
右外様大名之内ニ而陪譜代ニ被准家筋勤仕
五万石限三万石以下勤仕夜而半年或ハ年代り
被勤病氣ニ而滞府夜得者三年勤仕出火之節

海舟書屋

万端三番所之通り勤之

一番士十五人羽織袴　御成陪禮日都而勤方被准
大手厩斗目半袴着番頭も同服肩衣着用ハ
不相成夜事夜六ツ時ゟ大鼓ニ而大扉ゟ明
六ツ時ゟ開之夜九ツ時ゟハ潜扉ゟ曉七ツ
半時ゟ小扉開夜九ツ時ゟ小扉ゟ中ハ武士
方之外出入一切通不申夜ハ納屋之儀ハ相
通夜事

一和田倉御門　鉄砲十挺　弓五張　長柄十筋
　　持筒訓挺　持弓志組
右陪譜代大名壱万石限三万石限番所ハ法令外

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

櫻田御門と同番士五人羽織袴着

一馬場先御門　右同断

一神田橋御門　右同断

右外様大名七万石或者國主之分家筋ハ三万石以上限

一一ツ橋御門　右同断

一雉子橋御門　鉄砲五挺　弓三張　長柄五筋
持筒弐挺　持弓壱組

右万石以下五千石以上寄合勤仕

一竹橋御門　鉄砲十挺　弓五張　長柄十筋
持筒弐挺　持弓壱組

右諸藩代大名壱万石余限

海舟書屋

一清水御門　鉄砲五挺　弓三張　長柄五筋
持筒弐挺　持弓壱組

右万石以下三千石以上寄合三ヶ年宛勤番

一田安御門　鉄砲十挺　弓五張　長柄十筋
持筒弐挺　持弓壱組

右諸藩代大名壱万石限

一西丸番所　鉄砲五挺　弓三張　長柄五筋
持筒弐挺　持弓壱組

右万石以下四五千石以上之寄合三ヶ年勤番

一半蔵御門　鉄砲十挺　弓五張　長柄十筋
持筒弐挺　持弓壱組

右壱万石余之諸藩代大名勤仕

一日比谷御門　右同断

右壱万石余之外様柳間大名壱ヶ年勤仕

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一數寄屋橋御門　鉄砲五挺　弓三張　長柄五筋
持筒訳挺　持弓壱組

右万石以下五千石以上寄合三ヶ年勤番

一鍛治橋御門　鉄砲十挺　弓五張　長柄十筋
持筒訳挺　持弓壱組

右外様柳間大名壱万石余壱ヶ年勤仕

一呉服橋御門　右同断

右同断

一常盤橋御門　右同断

右同断

一幸橋御門　右同断

右同断

海舟書屋

一山下御門　鉄砲五挺　弓三張　長柄五筋
持筒訳挺　持弓壱組

右万石以下寄合三千石限三ヶ年ツヽ勤番

一虎御門　右同断

右万石以下寄合五千石以上三ヶ年ツヽ勤番

一赤坂御門　右同断

右万石以下三千石以上二而三ヶ年ツヽ勤番

一四ツ谷御門　右同断

右同断

一市ヶ谷御門　右同断

右同断

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一牛込御門　右同断

右同断

一小石川御門　右同断

右同断

一筋違橋御門　右同断

右方石以下五千石以上三ヶ年ツヽ勤番

一浅草御門　鉄砲五挺　弓三張　長柄十筋
持筒弐挺　持弓壱組

右同断

一濵大手　右同断

右同断

諸御門下座定之次第

一御三家方并御嬪子御簾中方御三卿方同御
嬪子御簾中方日光御門主公家衆并御門主
御老中所司代御側御用人大坂御城代若年
寄

右御下座

御側衆御留主居大目付御目付

右不及下座行儀勝直ニ拍子木一ツ打次事

一御三家方御三卿方日光御門主ニ表番士一同
薄縁下座を敷平伏三ツ拍子木惣下座二ツ拍

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

子木半下座但張出下座書ニ半下座と申
筋無之惣下座膝直計也半下座者油門番私
之戀意縁邊或者老若之嬬子抔ニ致候下座
也

一油三家方者夜中之無差別及下座其外者行
燈出候得ども不及下座油老中御名代之節者
可為格別候事

一油三家方油嬬子油籠中方ニ而三卿方之分日
光御門主之外者老中大扉開キ不申候事但
出火之節者何方ニ而も開門火消役相通ル

海舟書屋

諸御門面番所邊并桝形外張番所ニ高挑灯
配候事

慶安三寅年六月始而火消役二人被　仰付
明暦四年九月四人被　仰付元年九月
火消之役人ニ屋敷被下同二年八月壹人同
三年十一月壱人寛文二年二月壱人元禄八年七
月二人都合十一人ニ成り

元禄十一寅年九月火事場目付三拾人同十
月本所火事場目付五人両番ニ被　仰付
寶永元申年十月定火消被減又十組ニ成

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

享保七寅年三月始而火事場見廻を置同十
三年三月江戸町方ニ而
方角火消詰所之事
一麻布通増上寺邊出火之節ハ　詰所鹿ノ門
一芝金杉邊ハ
同幸橋御門之内
一弓町邊ハ濱邊ハ
同数寄屋橋御門之内
一築地邊ハ
同鍛治橋御門之内
一濵町邊堀町邊ハ
同呉服橋御門之内
一両國橋淺草御門邊ハ
同常盤橋御門之内
一淺草邊ゟ本郷邊ハ
同筋違橋之内

海州書屋

一小石川邊ハ
同小石川御門内
一小日向通音羽町邊ハ
同牛込御門内
一市ヶ谷大久保邊ハ
同市ヶ谷御門内
一四ツ谷邊ハ
同四ツ谷御門内
一数ヶ橋邊ゟ青山邊ハ
同赤坂御門内

戎装色目

一歩兵組
歩卒胴服股引袴共紺大羅紗を以可仕立事
上帯淺黄但木綿淺ハ各隊目印を附候事
一撒兵組

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

但　御目見以下五拾俵以下小普請之者組之者前同断上帯花色
小十人　胴服黒　立附紺　上帯紺

一徂撃組
冨士見御宝蔵番　御天守番　同断　同茶
御徒　同断　同断　同断　同茶
胴服　立附共総而羅紗を仕立有申積以下同断

一騎兵組
胴服紺　立附赤色

一大砲組
胴服股引袴共紺　上帯白

一騎兵槍組
胴服紺　立附花色

一各隊
歩兵　半胴服赤股引袴花色
喇叭手共胴服赤股引袴各其隊色に随ふ

一各隊下等士官者総而其組之者之如く
但別に同色之胴服羽織を着ず

一士官以上者胴服立附共上黒羅紗外に同色之胴服
陣羽織を着し羽織へ太刀袋を附け金銀之飾を
以て其階級を相分ち申候事

一両御番歩騎共
槍隊　胴服黒　立附媚茶　胴服羽織黒
刀隊　同　同桔梗色　同

一新御番
同　同鼠色　同

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一大内番　同　同荷莫

両内番新内番大内番等各一組毎之目印者其頭ニ之存意ニ而可相分事

但胸甲者可相用積内座事

一内儀本之向ニ俄ニ羅紗胴服一統着用被仰渡候而者人心如何ニ心配仕候胴服之品者羅紗用ひ候方両露霜雪ニも凌き便利之品柄故相用候儀勝手次第之趣被仰渡候方可然哉ニ存候事

十六名

海舟書屋

一布衣以上内役人并寄合両内番新内番大内番之向者小袴着用之方身分區別も相立可然哉ニ候布衣以上小袴之儀者菊とぢ有之製ニ仕度右袴脚不便之物ニ者有之間敷候事

但小袴者尤脚半附属之事ニ候事

一小十人も可相成者小袴ニ仕度もの内座候事

一諸内役人并寄合両内番新内番大内番等戎服之儀者腰巻小手頭中様之ものニ而可然ト併慶甲之令被仰出候ハヽ是迄所持之分賣拂候者も可有之候左候得者萬ニ一自國内取合或者

世界数ヶ國中ニ去接戦を好ス國も有之即
メ致シ候ニ付冠賊出来候節去自然不都合之儀も
可有之哉ニ遠慮仕候間物具之儀も是迄之通
所持罷在候様仕度事ニ候
一胴服羽織ニ無之陣羽織ニ仕度事

右目付ニ
覚

杉浦龍次郎
岡田斧五郎

今度陸改革ニ付弓矢鉄砲奉行勤向ニ而も具足奉行ニ
打込被　仰付候ニ付而ハ武具奉行と唱替被
仰出候具足奉行組同心之儀も同様打込勤唱
替被　仰出候間可被得其意候ニ付武具奉
行ニ而ハ扶持拾五人扶持宛増被下候間其段可被申渡
候尤席順之儀ハ只今迄之通りと相違候間可
被得其意候事

亥七月

大目付

海事書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

陸勘定奉行
陸作事奉行 江
陸目付
陸使番
覚

陸普請奉行陸廃止相成候ニ付五役之儀以来
大目付陸勘定奉行陸作事奉行陸目付陸使番
ニ陸定相成候間可被得其意候事

亥九月

海舟書屋

大目付
江
陸目付

三陸番新陸番中奥寄合小普請之面々御床机廻り御
警衛之儀ニ付其役々見込ニ可被為任候間従来之格ニ依
り古今ニ折衷し速ニ陸実備相立候様可被致候
但大砲小銃等ニ西洋器相用不苦候
右之趣万石以下之面々ニハ不洩様可被達候事

九月

外様大名御軍役取調書

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

百貳万貳千七百石
歩兵十大隊
騎兵一挨斯加獨竜
大砲五座
松平加賀守

七拾七万八百石
歩兵八大隊
騎兵一挨斯加獨竜
大砲四座
松平修理大夫

六拾貳万五千六百石余
歩兵七大隊
騎兵一挨斯加獨竜
大砲三座
松平陸奥守

五拾四万石
細川越中守

海舟書屋

歩兵六大隊
騎兵一挨斯加獨竜
大砲三座
松平美濃守

五拾貳万石余
歩兵六大隊
騎兵一挨斯加獨竜
大砲三座
松平安藝守

四拾貳万六千石余
歩兵五大隊
騎兵三小隊
大砲二座
松平肥前守

三拾五万七千石余
歩兵五大隊
騎兵一中隊

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

大砲二座

三拾弐万五千石

歩兵四大隊
騎兵一中隊
大砲二座

松平因幡守

三拾壹万五千弐百石

歩兵四大隊
騎兵一中隊
大砲二座

松平備前守

三拾弐万三千九百五拾石

歩兵四大隊
騎兵一中隊
大砲二座

藤堂和泉守

海舟書屋

弐拾五万七千九百石余

歩兵三大隊
騎兵一中隊
大砲二座

松平阿波守

弐拾四万弐千石

歩兵三大隊
騎兵一中隊
大砲二座

松平土佐守

弐拾壱万石

歩兵三大隊
騎兵一中隊
大砲一座半

有馬中務大輔

弐拾万五千八百石

佐竹左京大夫

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

歩兵三大隊
騎兵一中隊
大砲一座半

南部美濃守

弐拾万石

歩兵三大隊
騎兵一中隊
大砲一座

上杉弾正大弼

拾五万石

歩兵二大隊
騎兵一中隊
大砲一座

立花飛弾守

拾壹万九千六百石

歩兵二大隊
騎兵一小隊

海舟書屋

大砲一座

丹羽左京大夫

拾万七百石

歩兵二大隊
騎兵一小隊
大砲一座

津軽越中守

拾万石

同

松平播磨守

拾万石

同

松平飛弾守

拾万石

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

同
拾万石　伊達遠江守
同　溝口主膳正
拾万石　宗對馬守
同
拾万石
同
高合七百三拾壱万弐千弐百五拾石
鉄砲卒九拾弐大隊
人員四万六千人　但一大隊ニ付五百人

海舟書屋

将士五千五百弐拾人
騎兵拾弐挨斯加獨竜　但一挨斯加獨竜ニ付九拾六騎
人員千弐百三拾四人
但一座ニ付六拾四人
将士弐千弐百人
大砲四拾五座
煩手弐千八百八拾人
将士七百弐拾人
七万三千弐百五拾石余
歩兵一大隊
大砲半座
鍋島欽次郎

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

七万四百四拾石余　中川修理大夫
同　松浦肥前守
六万千七百石　歩兵一大隊　大砲半座
六万石　加藤遠江守
同
五万千五百拾弐石余　歩兵八小隊　大砲半座　京極佐渡守
五万千八拾石余　伊東左京大夫
同

海舟書屋

五万弐千六百石余　鍋島甲斐守
同
五万石　黒田甲斐守
同
五万三千石　藤堂佐渡守
同
五万六拾石余　稲葉右京亮
同
四万三千石　歩兵六小隊　亀井隠岐守

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

三万六千石　歩兵五小隊　九鬼長門守

三万五千石　同　細井若狭守

三万石　歩兵四小隊　田村内膳

三万石　同　伊達若狭守

三万石　同　細井豊前守

三万石　同

三万石　同　松平主税

三万石　同　松平壹岐守

三万石　同　仙石讃岐守

三万石　同　松前志摩守

三万石　同　堀左京亮

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

弐万七千九百七拾石余	大村丹後守
歩兵三小隊	
弐万七千七拾石余	鳴津淡路守
同	
弐万七千石	秋月長門守
同	
弐万六千七百拾壱石	小出信濃守
同	
弐万五千石	池田信濃守
同	

海舟書屋

弐万五千石	木下備中守
同	
弐万五千石	木下飛弾守
同	
弐万弐千百石余	相良遠江守
同	
弐万弐拾壱石余	六郷兵庫頭
歩兵二小隊	
弐万石	毛利伊勢守
同	

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

貳万石　同　鍋島備中守
貳万石　同　佐竹播磨守
貳万石　同　岩城左京大夫
貳万石　同　南部遠江守
貳万石　同　森美作守

海舟書屋

貳万石　同　織田兵部輔
貳万石　同　織田英次郎
貳万石　同　分部若狭守
壹万九千五百石　同　九鬼大隅守
壹万八千石　同　關伊勢守

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

壹万八千石　大関肥後守
同
壹万八千石　市橋下総守
同
壹万六千三百石余　細川玄蕃頭
銃卒百人
壹万五千石　堀石見守
同
壹万五拾三石余　堀内蔵頭
銃卒六十人

壹万五千石　松平相模守
銃卒百人
壹万五千石　池田丹波守
同
壹万五千石　森對馬守
同
壹万三百四拾三石　伊東播磨守
銃卒八拾人
壹万弐千六百石　五島飛騨守
同

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

壹万五千石　京極飛弾守
銃卒百人

壹万千石余　土方賛千代
銃卒七拾人

壹万千四百石余　大関泰鉦九
同

壹万千百石余　片桐主膳正
同

壹万千石　南部美作守
同

海舟書屋

壹万三千石　山内摂津守
銃卒八拾人

壹万八拾弐石余　谷大膳亮
銃卒六拾人

壹万弐拾壹石余　遠山信濃守
同

壹万石　前田丹後守
同

壹万石余　上杉駿河守
銃卒六拾人

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

壹万石　同　津軽式部少輔

壹万石　同　松浦左近将監

壹万石　同　加藤山城守

壹万石　同　織田筑前守

壹万石　同　織田因摂津守

壹万石　同　建部三二郎

壹万石　同　北條相模守

壹万石　同　青木源五郎

壹万石　同　新庄容九

壹万石　同　堀右京亮

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

壹万石　一柳對馬守
同　同
壹万石　一柳兵部少輔
同　同
壹万石　京極下総守
同　同
壹万石　立花出雲守
同　同
壹万石　喜連川左馬頭
同　同

海舟書屋

小以　高百七拾九万千四百拾三石
銃卒弐拾四大隊余
人數九千四百人　但一大隊ニ付四百人
將士千四百八十一人
大砲五座
人員三百二十人　但一座ニ付六拾四人
將士九拾人
惣高九百拾万三千六百六拾三石
合　歩兵百十六大隊余
騎兵十二挨斯加獨竜
大砲五座

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

右者外様大名御軍役之儀書面之通り御座候
御施行高之儀者先達而御譜代家御軍役取調
申上候通りニ而別段見込無御座候御軍役者
御國内一般之儀ニ付先書ニ申上候通海軍賦
金御取立可相成者勿論ニ御座候得共数艘之
軍艦擁領出来候大藩者其家ニ応任相成候
而も可然其余者御譜代家同様可被仰渡儀
と奉存候以上

癸十二月

海舟書屋

開成所ニ海陸軍教授所一緝ニ
御関相成候儀ニ付申上候書付

陸軍奉行
御軍艦奉行

海陸軍御更張以来両軍之役ニ積心累苦学科
教導を始メ船隻之運動砲銃之操練等追ニ習
熟仕居候處此程征賊之命有之候ハ既ニ
實践之功績も著き士氣一層之奮發相増候折
柄ニ付此機會ニおゐて海陸軍将士御取立之
御仕法専ら御世話有之候ハゝ両軍数多之人

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

才を得一廉之陸兵備相立候儀を奉存候ニ
迫陸軍艦操練所ニ於て両軍之学術
教導方共勿論立制之編制軍律之規則等夫々
取調罷在候處操練所も當春陸軍
所ハ此程外国用ニ相成唯今之所全く一時之假
陸役所ニ候間何ニも改而陸詰構無之候而も
御盛大難相成加之両局共業前専務之陸場所
ニ付其任ニ堪候者甚難得従來陸人少之上殊
ニ當節ハ海陸実地之用頻ニ被 仰出水師
陸軍共各隊之役ニ分配も手足り兼候のミか

海舟書屋

らず前書浮浪之もの陸追討之節も兼而測量
學地理学器械学築城学等心得候ものの無之ニ
付地理遠近之無差別猥りニ空弾を相放一旦
賊徒埋伏之處も難見分器械之儀ニ付而も其
時く破損及候而も取繕候者も無陸座塞柵取
建候節も移時日機會を相失候事実遺憾之儀
奉存候處陸場所於く教授向等之儀ハ自然行
届不申候間別ニ海陸之兵学校各盛大ニ陸取
建相成候様可申上之處左候而ハ却而口ニ之陸出
方ニ相成陸入費莫大之儀ニ而急速陸成行如

何可有候歟且海陸両軍之儀去歳急之節首
尾應咎之活用有之候ゟ其学術之源因
も亦素ゟり二途無之候間教導方并軍議等総
而一轍ニ不出候而者難相成儀双方ニ場所懸
隣居候而者其儀行届兼候間両学校を合併し
海陸之兵校一所ニ御取建相成両軍之学術盛
ニ教導致し候様仕度候并是又ニ場所ニ建與
之ニ入費ゟり教導之師其外役ニ手當向等
ニ至り候而者中ゝ以不容易ニ出方ニ奉存候
間夫是勘辨仕候儀開成所之儀者ニ構内ニ間

海舟書屋

廣ニ而殊ニ洋學熟達之者多人數出役仕居候
間両軍学科之書籍等夫ニ爲取調候儀も元ゟ
出来致し候ニ付開成所ニ海陸軍教授所ニ一
緒ニ而開相成候儀至極ニ良法ニ奉存候ニ同
活場所之儀林大學頭林式部少輔ニ勿論陸軍
奉行御軍艦奉行ニ而取扱ニ候様被仰渡度左候
ハヽ両軍之者日ゝ同所ニ出勤仕前書両学科之
書籍取調候者一同盛ニ学徒教導爲致両軍之
役ゝ等も互ニ講習討論仕候ハヽ多年ゟ
して數多海陸之士官出来可仕且両局合一相

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

成丈上ハ教方軍議等総而一轍ニ出丈間後急
之節首尾應荅之無機貫通致ー両軍ニ備向一
段御威柄相立可申加之海陸両学校改而ニ建
真相成ニ比ゟれハ莫大之ニも省費ニも相成旁
以可然儀ニ奉存丈間前書申上丈通開成所ト
海陸軍教授所一緟ニ御開相成丈様早ニ御下
知ニ座丈様仕度尤陸軍将士ニ教育可相成ニ
仕法并教導方等之儀ハ已ニ取調申上置丈得
共開成所ニ海陸両軍教授所一緟ニ相成候儀
故其仕法并教導方等之儀ハ追下知相濟丈次

海舟書屋

第猶取調直シ申上丈様可仕奉存丈林大學頭
林式部少輔申談此段申上丈以上

子十二月

海陸軍教授所開成所ニ開相成丈儀ニ付
別紙相添申上丈書付

陸軍奉行

ニ付林大學頭其外ニ別紙之通相談仕丈當差
海陸軍教授所ニ一緟ニ御開相成丈儀

海軍艦奉行

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

支之趣申聞夜右去畢竟此場所新規ニ出来相
成夜ニ付而ハ爲筋至極宜敷儀ニ奉存候得共前
文之通差支申聞夜上ハ御英斷ヲ以同所ニ御
開相成夜樣仕度左候ハヽ深川越中島側松平下総守上屋數當節陸
軍奉行ニ而預リニ相成夜間右ニ而も前書海
陸軍教授所ニ而開相成夜樣仕度左同所之
儀ハ建物等一切無之座夜ニ付是又新規御
出來相成夜樣存夜右ハ別紙之通當今ニ而急
務之筋ニ而一日も不可欠之儀ニ御座候

海舟書屋

間御英斷ヲ以急速ニ下知相濟夜樣仕度依之
別紙相添此段申上夜以上

子十二月

陸軍奉行

海軍艦奉行

一第一遊撃隊　三百俵高　千人

一第二　　弐百俵高　同

一第三　　百五拾俵高　同

右ハ目見以上之分

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一 節四
一 節五
右 御目見以下之分
一 與力一統 御譜代被 仰付本高百俵ニ被成下候事
身一代取來候儘被下候事
一 地方取之與力八 御藏米ニ引替相成前同樣 御譜
代被 仰付本高甚外共同斷
一 病身ニ而実際 御用立兼候ニ付知行取之分高
五ヶ年平均之上兵賦軍役ニも三割之事
一 病身ニ而武役ニ難勤候ニ付共所長之技藝有之 御

百俵高 同
五拾俵高 同

海舟書屋

採用相成候上ニ前書之割合ニ不及候事
一 遊撃隊名之儀ニ
沙汰之事
一 騎兵ニ御江戸表ニ見込 御採用之事
一 兵數一列 御編成之事
一 在來之歩兵組ニ 御儘被差置 御望次第騎
兵ニ被差置候事
一 御馬口附之者 御廢之事
一 御馬飼同斷之事

思召も有之候ニ付追而 御

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

一小筒組大砲組メンフク口時印之儀新規時出
来之節志印時慶〻之事
一節一遊撃隊之儀志何迚も高録之者ニ付隊長
之儀右ニ準〻不申候半而志威令被行かた〻
筋も可有之哉之事
慶應二年丙寅五月周防守布達
西洋銃隊調練之儀志外國之利器ヲ採御國之
武備一際時厳整ニ可被遊趣意ヲ以先年中
ら〻享時世話も有之事ニ付右時趣意相心得

海舟書屋

勉励可致志旨論ニ依得共近来習練之道実理
を失ひ虚飾ニ流迚兎角新奇を好み自己之工
夫等取交遊戯同様之挙動致〻又ハ従来之時
制度も不顧外國人ニ斉き服を着用候向も有
之哉ニ相聞漸〻士風を破り且一体之御趣意
ニも相振迚以之外之事ニ候以来形容ニ不拘
真實致修行筒袖陣股引之類異様之仕立並ニ
華美之品一切相止都て陣服類稽古之外平常
猥ニ着用候儀ハ不相成候若心得違之者有之
候ハヽ急度御沙汰可有之候條其旨可心得候

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

右之趣向々ニ不洩様可被相觸候

同人口達

西洋銃隊調練之儀ニ付此度被仰出候趣形容
虚飾ニ不拘真実ニ致修行候實備相立候様可
被遊旨之御趣意ニ候畢竟追々虚薄ニ
流候着服等専洋風を模し異様之冠り物華美
之筒袖陣股引等相用候修練之実理を失ひ漸く
士風を破り一体之御趣意ニも悖り候之外之
事ニ候以來胴服陣羽織等洋製ニ不致様急度
心附筒袖陣羽織陣股引等聲古之外平常着用
不致且練兵ニ横笛相用候儀可致無用候萬一
此上心得違之者於有之ハ急度御沙汰可有之
ニ付尊相心得組支配ニも急度可申渡候

一レキシヨンと相唱候筒袖之羽織不苦候事

一ダンブクロハ袴腰有之分不苦候事

一胴服之儀ボタン一ツ掛ケハ不苦候事

一頭巾之儀ハ是迄之通り仕立ニ不苦候右
何も地合木綿羅紗呉絽之内勝手次第

一色ハ黒計りニ限り候事

一英國仕立羽織一切不相成候事

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

一 皆之儀ハ場所之外着用致間敷候事

一 士並ニ大鼓打ハ羽織一切着用不相成候事

一 小袴之儀ハ不苦候黒絣ニて印付外ニ一切不相成候事

奥向之者隊伍編成之儀見込申上候書付

騎兵ヲ分テ重騎兵中種ノ騎（ミットルリールチ ヘカフハレリー）軽騎兵トナス重騎兵ト称スル者ハ胸甲隊（キエラシール）馬上ノ「グレナーシール」及「カラビニール」是ナリ中

海舟書屋

種ノ騎兵ト称スル者ハ龍騎隊（ダラコンテル カフハレリー）長槍隊（メットトランヘランセン ボールルシーヲテランシール）是ナリ軽騎兵ト称スル者ハ「ヒエサーレン」軽龍騎隊短槍隊（メットコルテランセンヘット ベンテランシール）是ナリ龍騎隊ナル者ハ（カラベイン）ヲ備フルモノニシテ時アリテハ馬ヨリ下ルキハ歩兵ノ職ヲ務ル者ナリ重騎兵ナル者ハ殊ニ隊列ヲナセル戦争ニ用ユル者ニシテ敵ノ戦隊ヲ破リ以テ勝敗ヲ決スルノ用ヲナス軽騎兵ナル者ハ殊ニ散戦ニ用ユヘキ者ニシテ又先陣ノ職ヲ務ム

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

タラゴンデル 従來佛蘭斯ノ騎兵ニシテ歩兵ト
ナリ又騎乗ス其旗ニ龍ヲ画クニ依テ之ヲ龍
騎ト云其携フル所ノ武器ハ釵銃及銃槍ナリ
但此龍騎兵ハ元ト歩兵ナレ𪜈其駿速ナル
ヲ欲スルヨリ騎乗スト云ヘリコノ一ツノ氏タ
ルチーキ及サツクブツク中ニ見ヘタリ

右各種ノ騎兵中ニ小性并奥詰ノ向ハ龍騎隊ト
称スルモノニ倣ヒ六竅等ノ馬銃ヲ携帯シテ
君側ノ守警衛相勤時ト𪜈下馬スル時ハ銃
ヲ脊負歩銃ノ職ヲ務ルル者一埃斯加獨龍九拾

海舟書屋

六騎ヲ以編制外役ニ共ニ取建被為有之差
向ハ𪜈在来ノ人員ヲ以一ノ小隊ニ守編成
有之調練等習熟致シ候騎兵ニ𪜈馬并附屬之
品共ニ預被仰付銅料之儀ハ壱ヶ月ツヽ
代金ヲ以𪜈下相成右之通ニ編成ニ至候ハヽ
非常ノ𪜈ニ切等之節隊伍正整事アルノ時号
令ヲ以臨機應変ノ隊姿ヲナシ𪜈實備相成
可然ト奉存候右之通ニ採用相成候ハヽ小
隊伍長役ニ人員尚取調可申上候依之見込
申上候以上

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

本文騎兵ノ伐ハ政羅巴ニ於テ三兵何レモ同等ノ者ニテ業前ニ於テ異リ及伐無之座候得共身分相違ノ場合ノ隊名同様ニテハ之都合ニモ可有之候間騎馬隊ト之名有被為在度テハ如何可有之座哉

同年八月

小普請組支配ヲ廃シ頭ハ勤仕並寄合支配組共海陸軍奉行並支配或ハ組ヘ割入

火附盗賊改ヲ廃シ戸田與左衛門ハ勤仕並寄合組之者ハ小筒組ヘ割入

中奥御小性同之番ヲ廃ス

之持頭ヲ廃シ頭ハ勤仕並寄合共力同心ハ鉄隊或ハ小筒組ヘ割入

御先手ヲ廃ス頭組共前同断

御留守居番ヲ廃ス前同断

西丸之裏御門番頭ヲ廃ス前同断

火消役四組ヲ減ス前同断

同年十一月

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

陸小性二十九人ヲ減ス

陸小納戸百四十人ノ職ヲ免ス

同年十二月

屋敷改新地改ヲ廃ス

両陸番ヲ廃シ頭及組頭ハ勤仕並寄合組之内壮年ノ者ハ奥詰鉄隊其外ハ勤仕並小普請ニ入

新番組ヲ廃頭及組頭ハ勤仕並寄合組ノ内壮年之者ハ遊撃隊其外鉄隊ヘ入

御徒頭ヲ廃シ頭ハ勤仕並寄合組ハ鉄隊ニ入

小十人十五組ヲ減頭ハ勤仕並寄合組ハ遊撃隊及鉄隊ニ編入

大陸番五組ヲ減頭ハ御役御免勤仕並寄合與頭ハ勤仕並小普請組ノ内壮年ノ者ハ奥詰遊撃隊鉄隊等ニ入

井上左太夫田付四郎兵衛鉄砲方ノ役名ヲ廃ス

陸使番五十六人ヲ罷メ勤仕並寄合ヲ命ス

坊主ノ定員ヲ減壮年ノ者ハ撤兵組ニ割入蓄髪ヲ命ス

御旗奉行御槍奉行ヲ廃ス

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

旧腰物奉行並旧腰物方ヲ廃ス

進物番ヲ廃ス

富士見旧宝蔵番之頭ヲ廃ス

旧馬預旧馬方ヲ廃ス

旧鷹匠旧鳥見ヲ廃ス

旧譜代大名兵制変革之儀取調申上候書付

陸軍奉行

歩兵奉行並

去ル戌年中陸軍旧建與旧旗本中兵賦差出方

被仰渡猶此度旧変革諸般旧一新政府旧相當之兵備被為建候ニ就而者向後慶安度旧定旧軍役被為廃旧譜代大名兵制変革方被仰渡各家相當之銃隊編制旧軍役相勤右之中ゟ旧定備軍トシテ銃卒差出三都并警衛相勤其余自國守衛之儀ハ各藩嗜次第尤西洋銃陣法ニ無之而者旧實備難相成候ニ付舊格相廃シ冗費省畧専ら全國之旧守備相建候様被仰諭之上旧施行方左之通見込申上候

一 各家銃卒旧取建之儀ハ千石ニ付三人之積ヲ

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

以壹万石三拾人拾万石三百人ト相定拾一万石
以上ハ高之内ニ而五千石ヲ以野砲隊半座宛
残高之分銃卒差出ニ而拾万石以上ハ高之内五
万石ヲ以野砲隊一座宛残高前同様銃卒差出
拾万石以下ハ銃手而已差出ニ事

但拾万石以下ニ而も噂次第大砲差出ニ候儀
ハ勝手ニ相任ニ事

一壹万石ハ銃卒三拾人可差出之處半減ニ人員
拾五人可差出ニ候間士分以上家来壹人ニ軽ニ
人ニ而万石ハ銃卒六拾人可差出之處同断二拾

勝舟書屋

人差出ニ候間士分ニ而人ニ軽四人五万石ハ銃卒
百五拾人可差出之處同断七拾五人差出ニ候間
士分三人ニ軽八人拾万石ハ砲隊半座煩卒三
拾ニ人ニ而五人可差出之處同断百拾
ニ人差出ニ候間士分以上拾人ニ軽廿人差出以
上ハ拾人ニ付壹人員出ニ事

一陣立備兵差出置ニ就而ハ在来無用之人員
ハ可成丈減少在府之面ゝ登　城之節等旧格
導之役ゝ相勤ニ事

但家来之儀ハ中隊小隊半隊司令及押伍尚

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

二 不拘供連省畧可致事

一 各家兵隊組合之儀者其席〻而組合大隊指揮号令ハ武陜以上之者壱人宛差出半年又者一ヶ年ツヽ順番を以相務候事

但中隊以下役〻者各業前人物ニ寄て階級相立可申事

一 兵卒屯所之儀者別段無洛取設鉛〻屋敷〻ニ罷在一月二三回演習日相立調練場〻會合可仕事

但在府罷在候者ハ席〻申合調練見分可致

海舟書屋

事

一 兵隊教授之儀者陸軍役〻又者講武ノ局ニ於而業前熟達之者洛人撰教授被仰付演習可爲致事

一 大隊指揮當任之者ハ 御目見被仰付職務中相應之洛手當銀官〻ニ賜候事

但大隊指揮役 御目見洛手當銀賜候儀者兵卒取扱ニ就而者無據臨時失費も有之候場合ニより衆情ニ拘り候儀も有之且職掌丈之威權も無之而者命令難被行候ニ洛座候

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

一非常出陣又者京坂地警衛等ニ而出張被　仰
付候節者前條教練抔之者附屬被　仰付兵隊
地取締者勿論教練方無怠惰取扱候事
一糧米并器械胴服陣股引兵賦佩刀何ニも人員
ニ應シ其家ニ而差出小銃之儀ハ各種區々ニ
而者實際應用難致同口徑之ミニ一銃ニ一定
無之而者甚不都合ニ付一定之品官ニ而被買
上夫々地拂下ケ被　仰付大小砲共彈藥之儀
者實用之分官ゟ賜候事
但大砲之儀も同一之者相用冠ゟの胴服目
標ハ其席々ニ而一定致シ別段其家々之小
印相用候而も不苦候事
一遠國邊境之向無擾正人數難差出金納相願候
者ハ壹人ニ付金五拾兩宛之割を以差出候事
但金納之分者海軍之賦ニ組込之事
一兵賦之儀各家領内農民中身元慥成者二三男
厄介都而年齡十七歳ゟ四十歳以下身材強壯
之人物相撰五ヶ年季交代之見込を以差出可
申事
但士分以下足輕等を以兵賦中へ差加候儀ハ

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

苦夜浮共勤職中ニ帯刀以下之事

右之通取調仕夜處各家為合之衆ニ夜浮ニ一
和協力之御仕法無之夜半而ハ難相立候建與
之初頭右肝要之儀ニ付才畧人望之者両三名
御撰擧候整備相成迄之間諸事御委任有之
夜ハヽ御成功可申夜哈諸代家兵制変革
被仰出夜ハ其節ニ目今之機會ニ有之可然哈
儀ニ哈座夜一体本邦四面海ニ瀕ニ夜地形ニ
哈座夜浮ニ而海軍専一ニ哈擴張有之夜ニ
勿論之儀ニ付哈三家方を初め沿海之諸侯者

海軍之賦差出ニ山境之諸侯ニ陸軍ト組分被
仰付可然之儀海陸渾而千石三人可差出積
ニ而ハ内壹人半海軍之賦ニ當テ金納被
仰付残壹人半ハ正人員差出可然陸軍哈定備之兵
ハ其領所并哈旗本兵賦或ハ市兵等ニ而御建
置相成有事ニ臨諸侯ヘ募兵被
仰付夜節ハ
五万石銃卒三百人十万石ハ銃卒五百人大砲
半座弐十万石ハ銃卒千弐百人大砲壹座ニ右
目的ニ哈軍役被
仰付其餘噐次第人數相
増夜儀ハ勝手次第ニ被仰渡可然奉存夜依之

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

別紙兵員取調書相添此段申上候以上

寅十月

下ケ札

本文銃卒煩卒之儀各家領内農民を以差出
候而も多分之入費も相掛海軍之賊徒取立
方之差響ニも罷成候間家来足軽を以差出
候方格外入費も相減ニ其上砲銃之術業相
開候基本とも相成惣体之御都合可然哉と
奉存候

勝舟書屋

二兵下役所改正之儀見込申上候書付

此程小栗上野介申上候三兵下等士官 西洋ヨンドルオヒシール

ハ偶數半隊司令及左右翼導押伍之役相務候
者ニ而去ル戌年陸軍所創建之節西藉ニ依而
概取調申上候由ニ今日ニ至り候而ハ此度尚
所変革ニ盛大被為在候ニ就而ハ是迄之御規
則所一變按隊籠隊中兵卒ハ人撰都而右役
ニ之場合為相務候方萬國之法ニも相叶惣
体所都合ニも可然云々の儀ニ付一同評
議勘辨仕候處素々洋法ニ準ひ所取建相成

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

不候ニ候得ハ不都合之廉ニも追々ニ改革直し
相成可然既ニ西洋ニかぎらず連年変革仕候
儀も不少都而簡易ニしテ実備相成候筋を
速ニ御改正被為在候を旬論之儀ニ付猶再議
熟慮仕候処兵制之儀ハ国政ニ渉り候儀ニ有
之候得ハ目今之形勢をもん全く洋法通りニハ
難被行事情も不少西洋ニ於而も有事ニ臨ハ
全国皆兵ト唱ル之法律を立正兵農兵之二種
ニ区別仕候由農兵ト唱ル者ハ是を護国軍ト称
シ国々之兵校ニ入学ハ多クハ年々春秋二回都
府近郷ニ参会演習を為さしめ其司令隊吏を
業前人物之階級ニ由て抜抽差等を分チ之を
自他出師之募兵ト仕候由正兵ナル者ハ兵を
職トス所謂常備軍ニ有之候得ハ指揮総官以下下
等士官ニ至迄相備り学術相進候者ハ兵士ト
雖も選挙ニ而候儀ハ万国普通之趣ニ兼及
候故ニ外国之制度ニ拘泥難仕儀も有之何分
目今之形勢ニて無智無能之野人をもん全隊兵
草之進退教導及指揮候事等之取締方ニ至
迚行届候儀無覚束況哉馬之際ニ有之候ハヽ士

卒之勉惰を正し候儀如何可有之哉或ハ亡命
脱走等を恥辱とせさる之憂も有之第一卒伍
中々捜抽當用可仕人物も無之殆困却之至候
座候是迄僅ニ伍長而已洋ルホラール申渡置候迄之義ニ
而右を以當今之間合不残相廃止有之候而
者現ニ差支可相成哉と甚心痛彼是參考前章
之儀偶數半隊司令左右louis導ハ是迄之通相据
置押伍副壱名を廃し一兵卒中々人撰差出候ハヽ
可然哉右ニ而も一大隊ニ付下役拾名を減殺
仕候砲兵之儀も是迄一座ニ付下等士官弐拾
名或ハ弐拾壱名ツヽ之處以後単砲司令八名
障薬附四名ノ拾弐名ト相定餘員八名を減ニ
右之分兵士中々人撰差出候見込右之通相省
器相成候得ハ歩兵十列獅綿多ニ付下等士官
弐百員砲隊十座之上ニ而同八十員を減殺仕
候然ル上ハ押伍當用之兵士ハ相當之押手當
被成下候ハヽ諸事不都合之儀も有之間敷奉
存候依之評議仕申上候以上

寅十月

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

陸軍三兵并撒兵差圖役下役之儀ニ付

見込申上候書付

此程小栗上野介より申上候陸軍三兵并撒兵差圖役下役（西洋ソルダアトニシーレン）を偶數半隊司令士及右嚮導押伍之役相勤候者ニ而去ル戌年陸軍御創建之節荷蘭之定則ニ概相倣ひ取調申上候由已ニ今日ニ至候處此度尚御變革ニ而盛大被為在候ニ就而ハ是迄之御規則ニ一變兵卒中ゟ人撰都而右役ニ之場合相務候方萬國之法ニも相叶ひ惣体之御都合ニも相成可然云々の儀ニ付勘考仕候處至極簡易之法ニ而尤之筋ニ付速ニ御改正相成可然儀ニ申上候迄も無之候得共兵士中取締并小頭等人撰之上申渡候者ニも差支候程之儀其上當時在京之兵隊ニ至而ハ人少ニも有之加之當節之形勢不容易御場合ニも御座候儀ニ付暫ク之内ハ各兵隊之氣張一ト際引立候樣仕度左候得ハ何角之御都合ニも相成可申哉ニ奉存候就而ハ目今充實之兵隊を御愛草被為在候而ハ如何可有之哉尤追而ハ御改正被為在候方御良法

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

と奉存候間當時在京兵隊之分を先此儘被差
置江戸表兵隊ゟ追々御一新相成候ハヽ可然
哉と奉存候依之此段申上候以上

寅十月

同年十一月美濃守布達

筒袖羽織陣股引之儀戎服と相達置候處以来
ぜゞ袖羽織細袴と相唱海陸両軍役ゝ之平服
と相心得其餘向々ゟ而も出火等非常之節ハ
右之服着用可被致候

海舟書屋

大目付ゟ

此度陸軍之面々都而銃隊ニ候編制相成候
ニ付戎服之儀向後筒袖羽織陣股引ニ御定相
成候間可被得其意候就而ハ出火之節登
城着服之儀も来卯正月ゟ右戎服着用可被
致候

但布衣以上黒羅紗紋白布衣以下黒羅紗黒
呉服服連之内紋黄　御目見以下何品ニ而
も黒き色紋前黄相用ゆるされも紋所ハ背へ一ツ

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

相附可申候

右之通相心得左用意肝要之面々も此節より着用
不苦候

寅十一月

大目付
江

戎服火事具之儀此度御改正相成候得共京地
之儀ハ左之通可被心得候

大目付

勘定奉行

作事奉行

海舟書屋

奥向

目付

使番

勘定吟味役

京在諸役人

右役々共火事羽織着用之事

奥右筆組頭

奥右筆

表右筆

納戸

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

右役々ヶ羽織袴着用之事

但白衣勤之向ヶ白衣之事

陸軍奉行並

鋭隊奉行

陸軍艦奉行

歩兵奉行

騎兵頭

同　並

歩兵頭

同　並

陸醫師

陸勘定方

陸目付方

陸作事方

陸同朋頭

陸同朋

陸數寄屋頭

陸膳所向

坊　主

六　尺

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

右筒袖陣股引常ノ羽織着用之事

右之通相心得可様向ニも寄ノ可達置候

大目付ニ

此度戎服火事具之儀洋改革被　仰出候ニ付

銃隊頭並
撒兵頭
同並
砲兵頭
其外銃隊役ノ組共

海舟書屋

而者従者服制之儀も追而相達候品柄并仕立
方紋所色目等主人ニ准之見込次第ニ而不苦
候間従者之別段揮ニ相分リ候ニ及ハ免襟袖之内
ニ家ノ之合印付候直参ノ不紛様可被致候
右之趣ヲ石以下之面ニ可被達候

寅十二月

當時再ニ軍制改正ノ命アリテヨリ專海陸ノ二局ニ令シ
其取調ヲ爲サシメ海軍ノ方ハ軍艦組塚本桓輔ニ
之ヲ擔任セシメ首トシテ沿海ノ警備大小軍艦水夫ノ定員ヲ建
議シ陸軍ノ方ハ講武所教授方桂川主税（後称藤澤志摩守）

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21

重モニ之ヲ任シ海陸相協議シ大器荷蘭ノ制
ニ倣ヒ両局将士階級俸禄ノ表ヲ製呈スル然
ニ海軍ノ事ハ全國ニ関渉スルヲ以テ封建ノ
制度ニ在テハ至難ノ箇條モ尠カラス況ヤ其
費額ノ如キモ殆ト幾千萬ヲ要シ一朝行ハル
可キニ非ス陸軍ハ従前旗下ノ舊様ヲ一變
シ之ヲ欧西ノ制ニ編成セントノ事ナレハ其
事較易キニ似タルヲ以テ先ニ採納セラレ終ニ
三兵制ヲ設ケ佛國ノ士官ヲ聘シ其兵式ヲ練習
スルニ至レリ然レ𪜈徴兵経費ノ事ニ至テハ別

海舟書屋

ニ一新法ヲ設ケ其仰ク處ナキヲ得ス於是
又兵賦ノ制ヲ改メ之ヲ旗下ニ課シ其定俸
ニ應シ上納セシムト雖モ昇平數百年ノ豢
養ニ慣レ一時驚然況ヤ國歩艱難ノ秋ニ際
シ上下ノ情相睽離シ其成功半途ニシテ止
ミタルハ是非モナキ次第ナリ凡一新法ヲ
創メントスレハ先ツ其根源ヨリ蕩滌掃除
スルニ非レハ未タ能ク功ヲ奏スヲ見ス譬
ヘハ家屋ヲ築クカ如シ前ヲ毀ナ後ヲ存シ
小修繕ニカヲ費サンヨリハ寧ロ始メヨリ

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

絶墨ヲ取テ工事ヲ起スノ易キニ若カス後ノ改張ヲ謀ル者以テ鑑スヘシ

陸軍歴史巻二十一

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-21

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-21